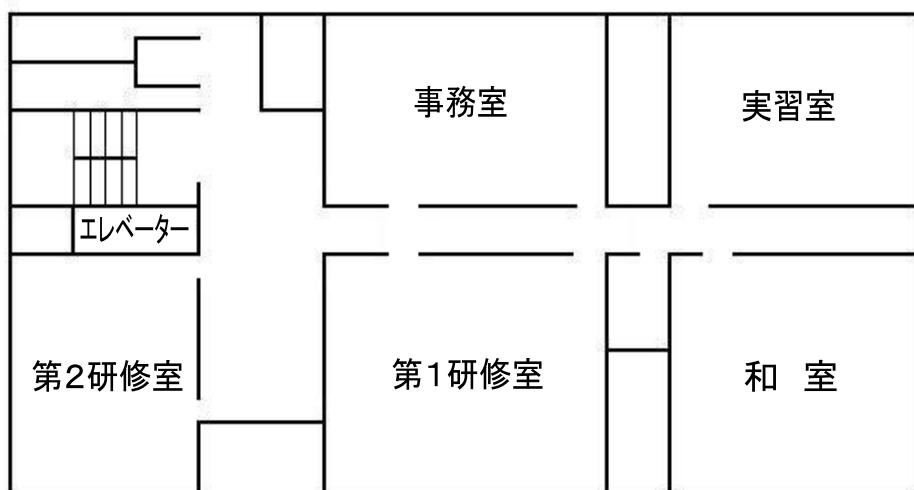
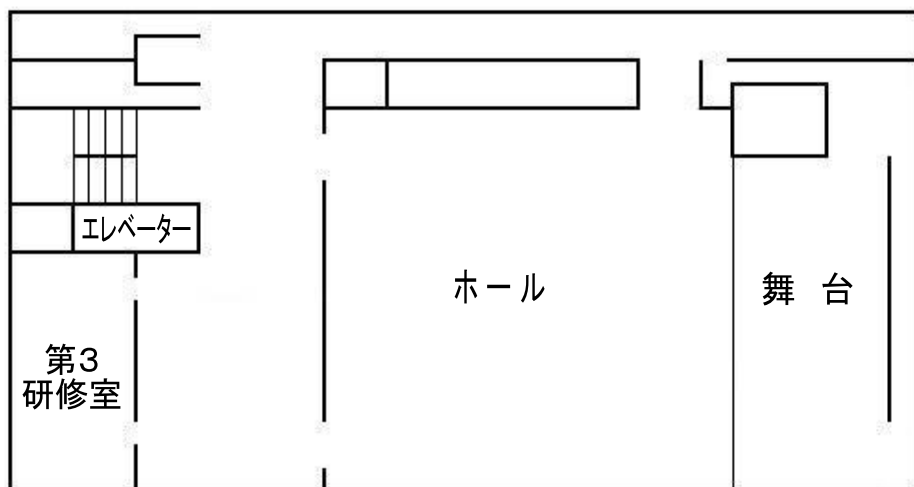


若 狭 公 民 館



〒900-0031 那覇市若狭 2-12-1
TEL 917-3446 FAX 869-8624

利 用 施 設 の ご 案 内



部屋名	収容人数	用 途 (備 品)
ホール	200～250 人	講演会・発表会・音楽会・展示会等 (ピアノ・イス等)
第 1 研修室	60 人程度	研修室・会議 (イス・テーブル)
第 2 研修室	30 人程度	研修室・会議 (イス・テーブル・電子ピアノ)
第 3 研修室	20 人程度	研修室・会議 (イス・テーブル)
実 習 室	20 人程度	調理実習・その他実習 (料理用器具等)
和 室	20～30 人 (12 畳×2)	お茶・生け花・着付け (茶道設備)

I 若狭公民館の沿革

旧若狭市場跡に完成した当施設は、国道58号線以西でははじめての文化施設である。平成元年4月に公民館・図書館建設用地として、用度管財課より教育委員会へ移管され、建設について地域住民、利用団体からの意見・要望を聴取し、平成3年6月22日工事着工、平成4年3月19日竣工した。

建物は若狭小学校、若狭公園に隣接し、1階は図書館、2・3階が公民館で地域住民の学習の場として誕生した。特に生涯学習に関する情報等を提供する事業として、パーソナルコンピュータと電話回線を利用したパソコン通信を県内の行政機関ではじめて導入した。

平成16年度より公募による非常勤館長を配置し、平成22年度より公民館業務の一部をNPO法人に委託している。平成27年度より指定管理者制度を導入し、NPO地域法人サポートわかさが指定管理者となった。

平成3年11月1日	若狭公民館の発足に伴い、館長 高良繁が発令された。
平成4年6月2日	若狭公民館及び図書館の開館式が行われた。
6月3日	若狭公民館及び図書館が開館。
6月10日	利用団体サークル（32団体）への施設の提供が始まった。
8月4日	生涯学習情報提供事業「NAHAあけもどろネット」開局式が行われた。
平成5年3月5日	第1回若狭公民館まつりが開催された。
平成6年11月7日	若狭公民館利用団体連絡協議会が結成された。
平成7年4月1日	館長 高良繁配置替えにより、館長 宮良毅が発令された。
7月14日	社会教育優良施設として県教育委員会より表彰を受ける。
12月1日	多年に亘り優れた公民館活動が認められ、沖縄県公民館連絡協議会より表彰を受ける。
平成8年4月1日	公民館主事1減に伴い社会教育指導員1増。
平成10年4月1日	館長 宮良毅配置替えにより、館長 阿波連寛が発令された。
平成11年10月27日	第52回優良公民館として文部大臣表彰を受ける。
平成13年4月1日	館長 阿波連寛配置替えにより、館長 高里洋介が発令された。
平成16年4月1日	館長 高里洋介配置替えにより、館長（非常勤）山田民子が発令された。 非常勤館長配置に伴い、主査1増、公民館主事1減。
平成17年4月1日	社会教育指導員1減。
平成19年4月1日	館長（非常勤）山田民子任期満了により、館長（非常勤）宮城潤が発令された。
平成22年1月12日	第3回全国公民館ホームページコンクールで最優秀賞を受ける。
平成22年4月1日	館長（非常勤）宮城潤任期満了により、館長 津嘉山剛が発令された。
平成22年4月1日	業務の一部をNPO法人地域サポートわかさ（理事長 早川忠光）に委託された。
平成23年1月21日	第3回全国公民館報コンクールで『広報わかさ』が優秀賞を受ける。
平成23年4月1日	館長 津嘉山剛配置替えにより、館長 平良恒次が発令された。
12月13日	第4回全国公民館ホームページコンクールで最優秀賞を受ける。
平成24年4月1日	館長 平良恒次配置替えにより、館長 下地敏雄が発令された。
平成26年1月6日	第5回全国公民館ホームページコンクールで優秀賞を受ける。
4月1日	館長 下地敏雄配置替えにより、館長 平良恒次が発令された。
平成27年4月1日	指定管理者制度の導入により、NPO地域法人サポートわかさが指定管理者（理事長 早川忠光）となる。
平成28年1月8日	第1回全国公民館インターネット活用コンクールにおいて最優秀賞を受ける。
平成28年12月21日	第6回全国公民館報コンクールにおいて『広報わかさ』が優良賞を受ける。
平成30年1月8日	第2回全国公民館インターネット活用コンクールにおいて最優秀賞を受ける。
平成30年3月8日	第70回優良公民館（文部大臣表彰）において「最優秀館」に選ばれる。

平成30年12月13日	第7回全国公民館報コンクールにおいて「最優秀賞」を受ける。
令和 2年 1 月	第3回全国公民館インターネット活用コンクールにおいて「最優秀賞」を受ける。
令和 3年 1 月	第8回全国公民館報コンクールにおいて「銀賞」を受ける。
令和 3年12月	第4回全国公民館インターネット活用コンクールにおいて「金賞」を受ける。
令和 4年12月	第9回全国公民館報コンクールにおいて「銀賞」を受ける。
令和 6年 1 月	第5回全国公民館インターネット活用コンクールにおいて「金賞」を受ける。

Ⅱ 令和6年度若狭公民館事業目次

1	学習風景（写真）	87
2	成人一般対象事業	
	〔1〕 市民講座	
	◇政治って何だろう？	88
	◇ユーチュー部 2024	89
	◇南の島の南極教室2024	90
	〔2〕 成人講座	
	◇ネパール献血者協会3周年記念“命を分かち合う献血”	91
	◇みんなで考えよう！那覇市生涯学習推進計画（素案）パブコメ勉強会	92
	◇竹中 俊お話会 「ネパールで35人のパパ」	93
	◇能登被災地支援報告会 ～沖縄での防災・減災に生かすために～	94
	◇上映会&トーク「はざまー母語のための場を探して」	95
	◇リッカ！ヤールーキャラバン！事前合同研修会	96
	〔3〕 健康講座	
	◇あさるんぽ♪	97
3	高齢者対象事業	
	〔1〕 高齢者学級	
	◇new!喫茶むすぶ	98
4	青少年対象事業	
	〔1〕 少年教室	
	◇科学のびっくり箱！なぜにレクチャー「お魚ロボット」	99
	〔2〕 青年講座	
	◇うみそら上映会実行委員会	100
	〔3〕 放課後子ども教室	
	◇若狭公民館放課後子ども教室「若狭ちむどんどん太鼓」	101
5	家庭教育事業	
	〔1〕 親子ふれあい学級	
	◇未就学児向け出張！科学実験教室～野菜で虹色の水を作ろう～in那覇市若狭公民館	102
	〔2〕 家庭教育学級	
	◇カミングアウトのいない未来へ～保護者のための性の多様性講座	103

6 その他の事業

〔1〕 地域連携事業

◇ネパール ニューイヤー パーティー 2024/2081	104
◇うみそら上映会 in 若狭海浜公園	105
◇あけぼの・うみそら上映会	106
◇第26回 若狭地域文化祭	107
◇うまんちゅすりてい CGG年末美化清掃 プラスONE	108
◇一品持ち寄り「朝食会」200回記念『アチビーフェス』	109
◇新春もちつき大会2025	110
◇なは防災キャンプ'24 春(那覇市立若狭小学校)	111
◇なは防災キャンプ'24 夏(新都心公園)	112
◇なは防災キャンプ'24 秋(那覇市立上山中学校)	113
◇なは防災キャンプ'25 冬(那覇市立那覇小学校)	114

〔2〕 提案事業

◇アート部2024	115
◇多文化カフェ・わかさ	116
◇無料英会話教室「ELIPO」	117
◇一品持ち寄り「朝食会」	118
◇公共施設管理団体等が実施する子どもの居場所運営事業	119

7 第32回 若狭公民館まつり 120

1. 学習風景



健康講座

あさるんぼ♪



成人講座

能登被災地支援報告会



市民講座

南の島の南極教室 2024



高齢者学級

new! 喫茶むすぶ



地域連携事業

なは防災キャンプ'24 夏(新都心公園)



地域連携事業

うみそら上映会 in 若狭海浜公園

2 成人一般対象事業

〔1〕市民講座

講座名 タイトル		若狭公民館×大名児童館合同企画 『政治ってなんだろう？ ～沖縄県議会選挙立候補予定者が小中高生の疑問に答えま す～』								
事業概要		2024年6月16日に投開票が行われる「沖縄県議会議員選挙」（那覇市・南部離島区） の立候補予定者に対して、子どもたちが政治に関する素朴な疑問を質問し、立候補 予定者がその質問に答える。その様子をYouTubeオンライン配信し、選挙期間中アー カイブ視聴も可能とする。								
現状・課題		近年の選挙では投票率は低迷しており、とくに18・19歳の沖縄県議会議員選挙投票 率は、直近3回で40%前後にとどまっている。裏金問題等の不祥事などもあり、政治 への不信感が高まりつつある。特に若い世代は、政治家と直接対話する機会が極め て少なく、自らの生活と政治が密接に関わっていることが感じづらい状況がある。								
事業目的 めざす姿		小中高生が、選挙立候補予定者と直接対話することを通じて、政治に関心を持つよ うになる。また、立候補予定者は、子どもたちとの対話から、有権者ではない市民 を含む多様な市民の声を政策に反映させることを意識するようになる。このトーク イベントの様子をオンラインライブ配信することを通じて、選挙啓発につながるこ とも目的とする。								
対 象		・司会・質問者：那覇市在住在学の小中高生 ・沖縄県議会選挙立候補予定者 ・視聴者：関心のある方どなたでも								
募集人数等		定員なし 参加延べ 426人 【申込率100%・参加率100%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	オンライン
	01	5月29日(水)	19:00	～	21:00	オンラインZoom	7	4	3	0
	02	6月2日(日)	12:00	～	16:00	大名児童館	11	6	5	0
	03	6月2日(日)	14:00	～	16:00	オンラインZoom +YouTube	408	0	0	408
内容	01	司会・質問者となる児童生徒を対象とした事前研修会								
	02	児童生徒及び予定候補者に対するオリエンテーションとZoomでの質疑応答								
【講座の様子・感想】										
・「裏金って沖縄でもあるの？」と質問。候補者から説明を受け、身 近に感じたしもっと知りたくなった。（小学生） ・選挙権が得られる18 歳になってから調べればいいと思っていたけ ど、今日で“早く知るほど得”と感じた。（高校生） ・子どもの率直さに初心を思い出した。声を政策に反映したい。（予 定候補者） ・アンケート結果（満足度）100%										
										
【成果】										
・事前勉強会で「選挙の5原則」「県議会の役割」を学んだ児童生徒 は、子どもならではの素朴な疑問から、質問内容を考えることで、生 活と政治の関わりを考える機会となった。 ・子どもたちが候補者と対等に対話した経験は、次世代の主権者とし ての自覚を醸成するとともに、地域社会の政治文化を考える契機と なった。										
										



2 成人一般対象事業

〔1〕市民講座

講座名 タイトル		ユーチュー部 2024								
事業概要		在住外国人の生活目線でまちを紹介する動画を作成し、YouTubeで発信。誰でも気軽に見ることができる動画は、視聴者が在住外国人の思いや視点に気づくことができるツール。動画を活用して地域住民との関係づくりのきっかけを提供することを目指す。								
現状・課題		那覇市や沖縄県全体では、技能実習生・留学生・観光業関係者など外国人住民が増加している。言語や文化の違い、孤立感、生活の不安定さなど、地域で暮らす中でさまざまな困難を抱えている。地域住民とのつながりが少ないことで支援にもつながりにくく、互いの理解を深めるきっかけが必要とされている。								
事業目的 めざす姿		グループワークを通じて、地域住民と外国人が交流することで、互いの理解が深まり、多文化共生社会の実現に向けた一歩を踏み出すことができる。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学の人								
募集人数等		定員20人 申込 28人 参加延べ 84人 【申込率140%・参加率75%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	
	01	8月14日(木)	19:00	～	21:00	若狭公民館第1研修室	24	7	17	
	02	8月21日(木)	19:00	～	21:00	若狭公民館第1研修室	24	7	17	
	03	8月28日(木)	19:00	～	21:00	若狭公民館第1研修室	18	5	13	
	04	9月4日(木)	19:00	～	21:00	若狭公民館第1研修室	18	5	11	
内容	01	画面の作り方・講評								
	02	編集の仕方・講評								
	03	動画の撮り方・講評								
	04	ユーチューブに公開・講評								
講 師		藤井光（アーティスト）								
【講座の様子・感想】										
・もっと上手にできるようになりたい気持ちが沸々と湧いてきました。 ・分かりやすかった。時間割は最初から長めに設定するか、画像等の素材は事前準備で良いと思います。 ・一流の映像クリエイター藤井先生の直接のご指導を無料で受講頂けるなんて、若狭公民館だからだと思いました。藤井先生にも感謝です。 アンケート満足度100%										
【成果】										
・小学生から高校生までのさまざまな世代のご参加により、多世代交流が生まれた。 ・動画編集への関心が高く、動画制作に対するニーズがあることがわかった。 ・参加者からの評価が高く、講座終了後も公民館に質問に訪れる方がいる。 ・グループチャットで作成した動画を共有するなどの交流がつづいている。										



2 成人一般対象事業

〔1〕市民講座

講座名 タイトル	南の島の南極教室2024								
事業概要	南極観測や観測隊員の生活について学ぶ講座を開催し、南極の自然環境や研究活動の重要性を伝える。講座では、観測活動の遂行と、極地における共同生活の記録、南極の生態系などを紹介し、参加者が南極を身近に感じられるよう工夫する。さらに、地球環境の変化と南極の関係について学ぶことで、環境保全への意識を深める機会とする。								
現状・課題	南極の観測や観測隊員の生活について学ぶ機会は限られており、多くの人にとって馴染みが薄い。また、南極の環境や研究活動が地球規模の課題と深く関わっていることを知る機会も少ない。このような状況の中で、南極の自然や観測の意義を学ぶ場を設けることで、環境問題や科学技術への関心を高め、広い視野で物事を考える機会をさらに充実させていくことが課題である。								
事業目的 めざす姿	南極の環境を身近に感じ、環境保全の重要性への関心を高める。また、地球規模の視点で物事を考え、行動するきっかけとし、持続可能な社会の実現に向けた意識を育むことを目的とする。								
対 象	那覇市在住、在勤、在学の人、関心のある人 小学3年生以下は保護者同伴								
募集人数等	定員 50人 申込 62人 参加延べ 47人 【申込率124%・参加率76%】								
日時 場所	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	
	12月8日(日)	13:00	～	15:00	若狭公民館3Fホール	47	21	26	
内容	☆講座プログラム 司会：薮 伸児 ①司会による挨拶 ②各南極観測隊員の紹介 ③南極クイズ（クイズで回答した後、解説や豆知識を教えていく。） ④子どもたちからの質問 ⑤南極の氷の音を聴く。 ☆パネル展示 パネルや南極の石、ブーツなど								
講 師	西巻 英明、馬場 莊太郎、大下 和久、薮 伸児、渡邊 研太郎 (南極観測隊OB)								

【講座の様子・感想】

- ・貴重な体験談を聞いたこと。また、子どもたちに本物の学習する意義を教えらるいい機会だった
 - ・南極での生活や食べ物、調査内容などを元隊員の方々から詳しく聞くことができ、とてもおもしろく、勉強になった
 - ・何万年前の氷を見たり、はじける音を聞いたり、貴重な経験になりました。
- アンケート結果（満足度）97%



【成果】

- ・観測隊OBによる講話やクイズを通じて、南極についての知識を深めることができた。
- ・南極のブーツやパネル、隕石の展示を通じて、視覚的に学ぶ機会を提供できた。
- ・休憩時間や終了後に講師と直接意見交換をする場面が見られ、積極的な学びの姿勢がうかがえた。



2 成人一般対象事業

〔2〕成人講座

講座名 タイトル	ネパール献血者協会3周年記念 “命を分かち合う献血”		
事業概要	ネパール献血者協会設立3周年を記念し、献血啓発イベントを開催する。公民館が関わることで、地域社会に広く周知し、国籍を超えて助け合い、共生する取り組みを促進する。		
現状・課題	外国人の献血は、言語や制度の壁、情報不足などにより難しさがある。また、地域では外国人によるさまざまな地域貢献が行われているが、見えにくく、その価値が十分に認識されていない現状がある。こうした中で、外国人自らが立ち上がり献血を呼びかける活動をその活動と共に広く周知する必要がある。		
事業目的 めざす姿	献血活動を通じて、外国人が地域社会に積極的に貢献する姿を可視化し、多文化共生の重要性が地域の認識となる。国籍を超えた協力と連帯が地域コミュニティの中で自然に育まれることを目指す。		
対 象	那覇市在住・在勤・在学の人		
日時 場所	期日	開始 ～ 終了	実施(集合)場所
	6月14日(金)	17:00 ～ 18:30	県民広場
内容	ネパール献血者協会の活動報告/献血啓発を呼びかけ/献血クイズ（沖縄尚学院高校生ボランティア）/缶バッジづくり		
【講座の様子・感想】 ・クイズ作成にあたり具体的な献血率などを調べた結果、意外にも若い世代の献血者の割合が高いことなどを知ることが出来た。（高校生ボランティア） ・在沖ネパールの方々が沖縄のために活動してくれる気持ちを嬉しく思った。 ・16歳から献血が始められることなどを知りました。友達を誘って献血に行ってみたいと思います。 ・公民館の活動がとても広く地域に根ざしているのを感じた。 こういった公民館がどこの地域にも存在していると住みやすく優しい地域になるなと思いました。 ・アンケート結果（満足度）100%			
【成果】 ・公民館から屋外へ会場を移行し、新たな開催形式での実施を達成。 ・悪天候だったが円滑な連携により、献血啓発イベントが実施できた。 ・高校生ボランティアと献血ルームのスタッフが交流し、協力体制の強化を実感できた。 ・国籍を超えて助け合い協働して課題に取り組む意識が高まり、外国人と共生する地域社会の実現に向けて一歩前進した。			







2 成人一般対象事業

〔2〕成人講座

講座名 タイトル	みんなで考えよう！那覇市生涯学習推進計画（素案）パブコメ勉強会							
事業概要	那覇市が進める生涯学習推進計画について理解を深め、市民が意見を持ちやすくするための勉強会を開催する。本勉強会では、計画の内容や目的を学び、意見交換を行うことで、市民が自らの考えを整理し、より具体的な意見を持てるようにする。							
現状・課題	那覇市は、生涯学習計画のパブリックコメント（市民意見募集）を市民に求めている。しかし、現状では十分に周知されておらず、加えて行政計画には専門的な用語が多く、市民にとって理解しにくいことが課題である。また、市民が意見を述べる機会が限られており、自治への関心を深め、主体的に関わるきっかけが生まれにくいことも課題である。							
事業目的 めざす姿	市民が計画の内容を正しく理解し、自らの意見を持つことで、まちづくりへの関心を高める。また、市民同士の対話を促し、自治意識を育むことで、政策形成への主体的な参加につなげる。							
対 象	関心のある方はどなたでも							
募集人数等	定員 20人 申込 18人				参加延べ 16人 【申込率90%・参加率89%】			
日時 場所	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性
	11月26日(火)	18:00	～	20:00	若狭公民館第1研修室	16	11	5
内容	①概要説明 ②感想・意見を共有							
【講座の様子・感想】 ・色々な視点の市民意見をきけた ・把握しづらい計画について考える良い機会となった ・生涯教育課の方々の計画書作成意図が、お聴きできたことと参加者の方々の意見・考えもお聴きでき勉強になりました。 アンケート結果（満足度）67%								
【成果】 ・市民と行政が直接対話し、意見交換を行う機会となった。 ・市民から「文章を市民目線でわかりやすくするべき」「教育の基本的な考え方を明記すべき」などの具体的な意見が出た。 ・市政と市民が歩み寄りながら、計画の改善に向けた議論を深める場となった。								







2 成人一般対象事業

〔2〕成人講座

講座名 タイトル	竹中 俊お話し会 「ネパールで35人のパパ」			
事業概要	ネパールの現状と支援活動を紹介するお話し会を開催し、地域に暮らす外国人への関心を高めるとともに、困りごとを抱える人々に対して現在の生活の中でできる支援方法を考える機会とする。			
現状・課題	地域には多くの外国人が暮らしているが、住民との交流は少なく関心も薄い。また、貧困や家庭環境に問題を抱える子どもは国外だけでなく地域にも存在する。ネパールでの支援活動を知ること、身近な課題に目を向け、誰もが支え合える地域づくりの意識を育むことが求められている。			
事業目的 めざす姿	地域住民が地域で暮らす外国人に関心を持ち、その生活や文化を理解することで相互理解を深め、自分にもできることを考え、多文化共生社会の実現をめざす。			
対 象	那覇市在住・在勤・在学、興味のある人			
募集人数等	定員なし 申込 52人		参加延べ 52人	
日時 場所	期日	開始 ～ 終了	実施(集合)場所	参加人数
	11月5日(火)	16:00 ～ 18:30	若狭公民館ホール	52
内容	講演会:竹中俊お話し会「ネパールで35人のパパ」120分/質疑応答 20分/ 若狭公民館:ネパール人コミュニティーとの関わりについて5分/ネパール人女性たちによるフェアトレード製品の販売			
講 師	竹中 俊 (ネパール孤児院運営)			
【講座の様子・感想】 ・今までで深く考えることのなかった世界の問題などについて触れ、考える機会ができた ・親のことばよりも、カッコいい大人のことばが、どれだけ子どもの心に響くか、実感した ・ネパールがどういう国でどのような状況にあるのかを詳しく聞けて貴重な経験になった ・アンケート結果（満足度）100% 【成果】 ・ネパールの生活や現状、支援活動についての理解が深まった。 ・困りごとを抱える人々に寄り添う方法として、小さなアクション（声をかける、気にかける）から始められることを参加者で共有できた。				







2 成人一般対象事業

〔2〕成人講座

講座名 タイトル		能登被災地支援報告会 ～沖縄での防災・減災に生かすために～							
事業概要		2024年1月1日に発生した能登半島地震。その後に豪雨災害も重なり大きな被害が今もなお続いている。被災地で支援活動をしてきたお二人の話とそこから考える沖縄の災害時の対応について考え、今後沖縄で起こる可能性のある大規模災害時の対応や課題、可能性について考える時間とする。							
現状・課題		能登半島地震、続けて発生した豪雨災害は、地震の影響と相まって、さらに深刻な被害があり、家屋の倒壊や土砂災害、孤立した地域の発生など、住民の生活に大きな影響を与えた。沖縄は地理的に台風時の対応は経験が豊富だが、地震や津波に対して脆弱な地域であり災害対策は、まだ課題を抱えている部分もあると考える。							
事業目的 めざす姿		地域ごとの特性を生かした支援活動の強化、住民の自主的な防災意識の向上、行政と民間の連携強化を過去の災害事例をもとにした地域別の具体的な防災計画を策定し、災害発生時には地域の強みを最大限に活用した支援活動ができる関係構築を目指す。							
対 象		那覇市在住・在勤・在学、興味がある人							
募集人数等		定員 50人 申込 37人 参加延べ 37人 【申込率74%・参加率100%】							
日時 場所	回	期日	開始 ～ 終了		実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	
	01	12月9日(月)	18:30 ～ 20:30		那覇小学校地域連携室	37	17	20	
内容	01	・能登被災地支援報告・パネルディスカッション・会場サブセッション							
講 師		有村博勝（能登半島災害支援「あかりのおと」） 嘉手納一彦（那覇市保健所健康増進課） 宮道喜一（災害プラットフォームおきなわ） 源河北斗（那覇市防災危機管理課）							
【講座の様子・感想】 ・普段の生活で精一杯で、防災用品を備蓄はなかなかできないが、まずは知る事から始めようと思って参加。被災地現場での様子や何 が大切かなど、体験した方の話が聞けてすごく参考になった。 ・能登半島地震から1年を迎え、また台湾沖地震時の津波警報における 沖縄の課題を、今年度中に振り返り深める良い報告会でした。 ・アンケート結果（満足度）100%									
【成果】 ・限られた時間の中で多くの参加者に対して有益な学びの場を提供で きた。 ・能登半島地震の事例を基にした実践的な内容が、他の地域（沖縄・ 那覇市など）でも今後の災害対応に役立つことが期待できる。 ・参加者から得られた意見やフィードバックをもとに、地域社会全体 の災害対応力向上に貢献したい。									





2 成人一般対象事業

〔2〕成人講座

講座名 タイトル	上映会&トーク「はざまー母語のための場を探して」							
事業概要	移民の子どもたちの母語教育をテーマにした上映会とトークイベントを開催。トヨタ財団の助成を受けて制作されたドキュメンタリー映画『In Betweenーはざまー』を鑑賞後、関係者によるクロストークを行い、母語教育の重要性について考える。外国にルーツを持つ子どもたちへの支援や課題を共有する機会とする。							
現状・課題	日本では、母語を学べない移民の子どもたちが増えており、将来の不安を抱える子どもも多い。地域による支援の差も大きく、母国語を話せない子どもたちが異文化理解や自己肯定感に課題を持っている。また、ネパールをはじめとしたコミュニティでも母語教育の場が不足している。							
事業目的 めざす姿	外国にルーツを持つ子どもたちが母語を学び、文化を継承する支援の重要性を再認識し、地域全体でのサポート体制を考えることが目的である。多文化共生社会を支えるために、地域社会の協力を促進することを目指している。							
対 象	那覇市在住・在勤・在学で興味のある人							
募集人数等	定員なし			参加延べ 60人				
日時 場所	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性
	3月1日(土)	14:00	～	16:00	若狭公民館ホール	60	24	36
内容	【上映作品】In Between- In Search of Native Language Spaces - 『はざまー母語のための場をさがして-』 【トーク】映画を制作したMICLEプロジェクト代表の田中雅子氏と沖縄県内で外国ルーツの人々の教育に関わる登壇者を交えたトークディスカッション							
講 師	ゲスト：田中雅子（上智大学 教授）、オジャ ラックスマン（沖縄ネパール友好協会 幹事長）、村上呂里（琉球大学 教授） ファシリテーター：大仲るみ子（多文化ネットワークfuふ！沖縄 代表）							
【講座の様子・感想】								
・外国人でも生きやすい社会になるように、小さいことでもアクションに落とし込んでいきたいです。 ・言葉の壁がとても大きいと生活や学校などいろいろなことに不安や問題があることを知ることができ良かった。考えるきっかけになりました ・生きる、考えるための土台となる言語が子どもの頃にしっかりと得られないのは問題。社会、地域で解決する必要があると思いました。具体的に私にできることはなんだろうと探して考えてみようと思います。 ・アンケート結果（満足度）100% 								
【成果】								
・母語教育の重要性や異文化理解の大切さや、子どもの自己肯定感やアイデンティティ形成に与える影響が再認識された。 ・地域社会での支援活動の必要性が強調された。 ・多文化共生社会を目指すための具体的なステップを考えるきっかけとなった。 ・ネパールの子どものお披露目があり、地域での母語活動の重要性を実感することができた。 								



2 成人一般対象事業

〔2〕成人講座

講座名 タイトル	リッカ！ヤールーキャラバン！事前合同研修会							
事業概要	防災・減災に役立つ知識を楽しく学ぶことで、災害に対する意識啓発を行うとともに多世代が交流できる防災イベントの事前研修会を行う。各まちづくり協議会、自治会、民生委員、包括支援センターを対象に広く呼びかけ、地域内外の人的交流を促すと同時に防災に関するプラットフォーム構築を目的とする。							
現状・課題	防災活動は、年齢や世代を問わず広く地域社会全体で取り組むべき課題だが、現実には各世代間での交流が少なく、特に高齢者と若年層との間に防災に関する情報や意識のギャップが存在すると現状がある。							
事業目的 めざす姿	地域内外での人的ネットワークを構築し、防災活動における情報共有を促進することが、災害に強い地域社会を作る。							
対 象	若狭小学校区の地域の方々・地域・自治会・民生委員・包括支援センター・興味関心のある人							
募集人数等	定員なし 申込 23人				参加延べ 23人			
日時 場所	期日	開始 ～ 終了		実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	
	6月1日(日)	14:00 ～ 17:00		若狭公民館ホール	23	15	8	
内容	①誕生経緯や仕組みについて説明 ②プログラムの説明と実演							
【講座の様子・感想】 ・住民の皆様と一緒に防災を楽しく考える方法を学びたかったので、大変勉強になりました。 ・実際にプログラムを体験することで、子どもたちや地域での災害時のイメージが湧きやすかった。 ・アンケート結果（満足度）100%								
【成果】 ・地域住民や自治会、民生委員が一緒になって防災について学ぶ貴重な機会を提供できた。 ・地域ごとに異なるニーズを反映させたプログラムを提供することで、より多様な参加者に対応することでより一層の防災力向上が期待できる。 ・イベントの波及効果を活かし、地域全体の防災活動を充実させる基盤作りを進めることができる。								





2 成人一般対象事業

〔3〕健康講座

講座名 タイトル		あさるんぽ♪								
事業概要		本事業は、市民の運動習慣を促進し、生活習慣病の予防および改善を目的とする健康講座である。ウォーキングを通じて、参加者が継続的に歩く習慣を身につけることを目指し「ひやみかち那覇ウォーク」への参加を促す。								
現状・課題		那覇市内における運動不足や生活習慣病の増加は依然として大きな課題となっている。特に中高年層においては、継続的な運動機会の創出が求められている状況にある。また、単独での運動は継続が困難であるケースが多く、地域住民同士が交流しながら取り組む運動プログラムの重要性が高まっている。								
事業目的 めざす姿		正しいウォーキング方法を学び、個人に合った歩き方を身につけることを通じて、ウォーキングを日常生活に取り入れることを目標とした。さらに、講座を通じて仲間と励まし合いながら、無理なく継続できる運動習慣を形成することを重視する。								
対 象		那覇市在住、在学、在勤の65歳以上の人								
募集人数等		定員 20人 申込 8人 参加延べ 18人 【申込率40%・参加率75%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	
	01	10月5日(土)	7:00	～	9:00	若狭海浜公園	6	0	6	
	02	10月12日(日)	7:00	～	9:00	若狭海浜公園	6	0	6	
	03	10月19日(日)	7:00	～	9:00	若狭海浜公園	6	0	6	
内容	01	第1回：正しいウォーキングフォームと準備運動の方法								
	02	第2回：ペースの調整と呼吸法／ウォーキング中の水分補給や安全管理								
	03	第3回：楽しく続けるコツ・ウォーキング仲間との交流タイム								
講 師		堀川 恭登								
【講座の様子・感想】										
・朝の気持ち良い時間を過ごせて楽しかったです。解説も勉強になりました。ありがとうございました。 ・周辺の自然を感じながら、歩き方や行き先の歴史などを教えてもらい楽しかったです。 ・参加している人たちと楽しくお話ししながら歩くことができました。 										
【成果】										
朝の時間帯を活用してウォーキングを習慣化することを目的に実施され、参加者は正しいフォームや呼吸法、安全管理などを学びながら実践的に取り組むことができた。講座は運動だけでなく、地域の自然や環境に親しむ機会にもなり、参加者同士の交流を通じて継続しやすい運動習慣の基礎が築かれた。 										



3 高齢者対象事業

〔1〕高齢者学級

講座名 タイトル		new!喫茶むすぶ			
事業概要		シニア世代の健康寿命の延伸が重要となっている昨今、社会参加が認知症の予防や生き甲斐づくりに最も有効であるといわれている。そこで、喫茶機能と学びをかけあわせた参加者の交流に重点を置いた学び合いの場を創出する。			
現状・課題		共に活動する仲間としての雰囲気づくりに努め、参加者が積極的に関わり続けられるよう、コミュニケーションを大切にしながら活動しやすい環境を整えている。参加者が自発的に行動できるよう促しつつ、取り組みを継続していくことが今後の課題である。また、個々のニーズや得意分野に応じた学び合いの場づくりが求められている。			
事業目的 めざす姿		参加者が積極的に社会活動に参加することで、認知症予防や生き甲斐づくりにつながる。参加者同士の交流が、自分の役割や存在意義を感じられるようにし、達成感を感じられるようにする。 自分の居場所を創出する力を養うことができる場となる。			
対 象		那覇市在住、在学、在勤の65歳以上の人			
募集人数等		定員 25人 申込 18人 参加延べ 196人 【申込率72%・参加率91%】			
開催期間		令和6年4月～令和7年3月の各月金曜日			
日時 場所 内容	月	実施(集合)場所	内 容	講師	参加人数
	4月	第1研修室/波の上ビーチ	オリエンテーション/ はまうりピクニック	佐藤（公民館）	13
	5月	第1研修室	昔話/切り紙	佐藤	6
	6月	第1研修室	デコパージュ/ペーパークラフト①	影山久子（参加者）	10
	7月	第1研修室	ペーパークラフト②/ 対話型アート鑑賞	リ・ヨンスク（聴色）	15
	8月	第1研修室	作曲/踊る整体	平岡、佐藤	17
	9月	実習室/第1研修室	料理/ 対話型アート鑑賞	上間好子（参加者）	17
	10月	第1研修室	絆ノート/画像生成AI	第一生命、KBC学園	17
	11月	第1研修室	ペーパークラフト/おりがみ①	影山久子（参加者）	17
	12月	第1研修室	おりがみ②/おりがみ③	角田康子（参加者）	16
	1月	第1研修室	ゆんたく/かるた・正月遊び	佐藤	12
	2月	第1研修室/実習室	バルーン/料理	仲宗根麗（バルーン作家）	21
	3月	第1研修室	音楽鑑賞/賀数仁然講演会	平岡、賀数仁然（琉球歴史家）	35

【講座の様子・感想】

- ・珈琲をいただきながら、楽しくおしゃべりできて、ちょっとした学びもあって、とても心地よい時間を過ごせる。
- ・毎回参加するたびに、リラックスできて安心感があります。
- ・得意なことを教え合ったり、ちょっとしたスキルをシェアしたりすること良い。
- ・「教える・教わる」だけでなく、対等な関係の中で学び合えるのが嬉しい。
- ・ここに来ると、自分の世界が少し広がった気がする。

アンケート結果（満足度）100%



【成果】

- ・学びの場でありながら、参加者同士の交流が深まり、「なかまづくり」の場として機能
- ・講座をきっかけに新たなサークルが立ち上がり、参加者間の絆が強化
- ・互いに助け合いながら活動することで、参加者が自己実現感・充実感を得られるようになった。
- ・受け身の学びから、主体的な関わりと実践へとつながるプロセスが定着している。





4 青少年対象事業

〔1〕少年教室

講座名 タイトル	科学のびっくり箱！なぜなにレクチャー「お魚ロボット」							
事業概要	次代を担う子どもたちを対象に、トヨタの出前講座を開催する。本講座では、「モノづくりの大切さ」や「科学の楽しさ」を伝え、実験や体験を通じて、子どもたちが科学技術に親しむ機会を開催する。							
現状・課題	子どもたちが科学やモノづくりに触れる機会は限られており、興味を持つきっかけが少ない。また、実際に体験しながら学ぶ場も不足しており、学びが実感を伴うものになりにくい現状がある。さらに、挑戦しながら達成感を得る経験ができる環境も十分とはいえず、楽しみながら学べる機会を充実させていくことが課題である。							
事業目的 めざす姿	子どもたちが科学技術に対する興味や夢を育み、将来の可能性を広げることを目指す。また、モノづくりの過程を学ぶことで、創造力や探究心を養い、科学や技術への関心を深めるきっかけとする。							
対 象	那覇市在住・在学の小学4年生から6年生							
募集人数等	定員 20人 申込 20人				参加延べ 20人 【申込率100%・参加率100%】			
日時 場所	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性
	9月8日(日)	10:00	～	12:00	若狭公民館ホール	20	11	9
内容	①講師紹介 ②魚の泳ぐ原理（作用反作用）について ③ロボット作り/実際に泳がせてみよう ④まとめ							
講 師	トヨタ技術会の有志メンバー							
【講座の様子・感想】								
・先生の説明や実験のたとえ話が分かりやすく、子どもたちは興味を持って参加していた。 ・子どもたちはロボット作りに夢中になり、試行錯誤しながら楽しんでいった。 ・実験や工作の内容は、少しチャレンジする要素がありながらも、達成感を得られるちょうどよい難易度だった。 アンケート結果（満足度）82%								
								
【成果】								
・実際にロボットを作ることで、達成感を得たり、学びがより実感を伴うものになった。 ・保護者からは、「有料でもよいくらい充実した内容だった」との評価があり、満足度が高かった。 ・ロボットづくりにとどまらず、原理について説明する場面があり、より興味関心が広がっていた。								
								

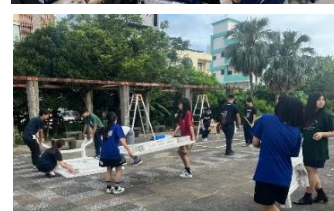


4 青少年対象事業

〔2〕青年講座

講座名 タイトル		うみそら上映会実行委員会								
事業概要		本事業は、有志によって結成された実行委員会が、野外イベントの演目や運営方法を企画・立案し、地域や世代を超えた幅広い人々が集う地域交流と情報交換の場である。								
現状・課題		昨今、若者の地域離れが進み、地域活動の担い手不足が深刻化している。また、少子高齢化や核家族化により、地域とのつながりが希薄になりつつある。一方で、キャリア形成のために地域活動へ参加したいと考える若者もいるが、その受け皿が十分に整っていない現状が課題である。								
事業目的 めざす姿		本事業では、地域や世代を超えた多様な人々が、それぞれの得意分野を活かしながら企画・運営に携わる。実践と振り返りを繰り返すことで、自己達成感や自己有用感を養うことを目指す。 また、継続的に会議や事業を展開し、他の地域行事でも積極的に取り組む人材育成を図る。								
対象		那覇市民在住・在学・在勤の人								
募集人数等		定員なし 申込 29人				参加延べ 175人				
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	
	01	5月14日(火)	19:00	～	20:30	若狭公民館第1研修室	11	2	9	
	02	6月11日(火)	19:00	～	20:30	若狭公民館第1研修室	12	2	10	
	03	6月28日(金)	17:30	～	21:00	若狭海浜公園	15	5	6	
	04	7月9日(火)	19:00	～	20:30	若狭公民館第1研修室	9	1	8	
	05	7月26日(金)	17:30	～	21:00	若狭公民館ホール	13	5	8	
	06	8月6日(火)	19:00	～	20:30	若狭公民館第1研修室	17	2	15	
	07	8月23日(金)	17:30	～	21:00	若狭海浜公園	26	8	18	
	08	9月10日(火)	19:00	～	20:30	若狭公民館第1研修室	4	1	3	
	09	9月27日(金)	17:00	～	20:30	若狭公民館ホール	14	4	10	
	10	10月8日(火)	19:00	～	20:30	若狭公民館第1研修室	10	4	6	
	11	10月25日(金)	17:00	～	20:00	若狭公民館ホール	13	4	9	
	12	11月12日(火)	19:00	～	20:30	若狭公民館第1研修室	16	5	11	
	13	3月10日(月)	19:00	～	20:00	若狭公民館実習室	15	3	12	
内容	1, 2, 4, 6, 8, 10, 12, 13回	うみそら実行委員会の指針決めや上映会の運営の打合せなどを行う								
	3, 5, 7, 9, 11回	うみそら上映会in若狭海浜公園のスタッフとして運営、準備片付け等を行う。								
【講座の様子・感想】										
・地域のイベントを運営する裏側の苦労や楽しさを知ることができた ・地域の子供達が喜んでいて姿を見て、やりがいを感じる事ができた ・凄く楽しく、アットホームな雰囲気があって過ごしやすかった。 ・企画運営の難しさや地域の活動の楽しさをしれたのが良かった。 アンケート結果(満足度) 100%										
【成果】										
・参加者を最後まで楽しめるようにするために話し合った結果、開場から開演までの時間、ヨーヨー釣りや射的など(プチ縁日)のアイデアが生まれ、参加者を楽しませた。 ・高校生たちは、プチ縁日に群がる子どもたちの誘導の仕方などを経験し、円滑な運営ができるよう工夫を凝らし、成長していく様子があった。										





4 青少年対象事業

〔3〕放課後子ども教室

講座名 タイトル		若狭公民館放課後子ども教室「若狭ちむどんどん太鼓」			
事業概要		子どもたちにとっての安心・安全な放課後の居場所を提供するとともに、エイサーを通じて郷土の文化・芸能にふれる機会とする。また、公民館の利用団体として地域行事にも参加し、地域の一員としての意識を育むことを目的とする。			
現状・課題		郷土芸能であるエイサーにふれる機会は年々減少傾向にあり、地域に根ざした伝統文化の継承が課題となっている。また、子どもたちの放課後の過ごし方には個人差が大きく、安心して継続的に参加できる地域活動の場が十分に確保されていない現状がある。加えて、公民館を拠点とする文化活動の継続性を高めるとともに、地域行事との連携を強化する必要がある。			
事業目的 めざす姿		エイサーの練習や発表を通じて、地域文化を体感的に学びながら、自らのルーツや地域との関係性に関心を持つ子どもたちを育てる。また、イベントへの出演や運営への関わりを通じ、地域社会の一員としての自覚と責任感を育み、将来的に地域を支える人材へと成長することをめざす。			
対 象		那覇市在住・在学の幼児～高校生			
募集人数等		定員なし 申込 20人 参加延べ 1152人			
日時 場所 内容	月	回	実施(集合)場所	内容	参加人数
	4月	13	若狭公民館ホール、 第一研修室	練習、海開き、ネパールニューイヤーパーティー	87
	5月	12		練習、なんみん祭	92
	6月	18		練習、地域の挑戦全国研修大会演舞	96
	7月	17		練習	102
	8月	20		練習、青年祭	98
	9月	13		練習	93
	10月	14		練習、若狭地域文化祭	98
	11月	17		練習、てんぴっこ祭り	96
	12月	14		練習、天尊廟600年祭、クリスマス会	95
	1月	14		練習、子どもフェスタ、もちつき大会	99
	2月	14		練習、公民館祭り演舞	103
	3月	17		練習	93
講 師		岸本麗子、上原愛			
【講座の様子・感想】					
・たくさんのイベント・行事に参加できて楽しかった。 ・放課後みんなと一緒に踊れるのが嬉しい。					
【成果】					
練習では、エイサーの基礎となるバチ回しや足上げの動作をしつかり身に着けることを意識し、演舞できる曲目も増えた。「若狭地域文化祭」や「若狭公民館まつり」などのイベント出演でモチベーションも上がり意欲的に練習に励む様子が見えた。また、若狭公民館まつりでは、司会や舞台裏方など運営スタッフとしても積極的に参加し役割を果たすことができた。					





5 家庭教育事業

〔1〕親子ふれあい学級

講座名 タイトル		未就学児向け出張！科学実験教室～野菜で虹色の水を作ろう～in那覇市若狭公民館								
事業概要		琉球科学研究会が親子を対象に出張講座を開催し、科学の楽しさを伝える活動を行う。								
現状・課題		現代の未就学児や親子は、科学に触れる機会が限られ、興味や探究心を育む場が不足している。特に、身近なものを使った体験型の学びが少なく、科学を身近に感じる機会が十分に確保されていない。また、親子で学びながら交流を深める場も求められているが、その環境が十分に整っていないことが課題である。								
事業目的 めざす姿		科学技術に対する興味や夢を育み、親子で学びながら科学への関心を高めるとともに、親子間の交流を促進することを目的とする。								
対 象		那覇市在住の未就学児とその保護者								
募集人数等		定員 50人 申込 38人 参加延べ 14人 【申込率76%・参加率37%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	
	01	7月29日(月)	10:00	～	11:30	若狭公民館3Fホール	14	6	8	
内容	01	①キャベツの茹で汁にお酢と重曹を入れて、色が変化の様子を体験 ②お酢や重曹を使い、酸性やアルカリ性についても体験 ③色を変化させたコップを並べて虹をつくる								
講 師		株式会社琉球科学教育研究会								
【講座の様子・感想】 ・視覚的にわかりやすく、器具等を使うので楽しみもあって良かった ・身近なもの（野菜、お酢等）で科学の楽しさを感じられた ・先生の進め方が上手でとても楽しめた。 アンケート結果（満足度）100%										
【成果】 ・未就学児でも科学の変化を体感できるテーマを設定し、興味・探究心を引き出した。 ・初めて器具（ピペット）に触れることで、子どもの好奇心を刺激した。 ・親子で一緒に実験に取り組むことで、協力しながら学ぶ姿が見られた。										





5 家庭教育事業

〔2〕家庭教育学級

講座名 タイトル	カミングアウトのいない未来へー保護者のための性の多様性講座								
事業概要	性の多様性に対する理解を深め、子どもたちが自分らしく安心して過ごせる家庭・学校・地域づくりを目的とする。								
現状・課題	性の多様性についての社会的認知は徐々に広がっているものの、子育て世代や教育現場においてはまだ理解が不十分な状況が続いている。特に、「家庭」「学校」「地域」といった子どもを取り巻く環境では、無理解や偏見が子どもたちの心身に深刻な影響を与えることがあるまた、LGBTQ+の子どもや親たちにとって、「カミングアウト」自体が大きな壁となることも多く、家庭内でさえ自分らしさを表現できない現実がある。制度や社会の視線によって、自分らしい生き方を選びにくい状況も根強い。								
事業目的 めざす姿	保護者が性の多様性についての理解を深め、家庭内での受容や支援のあり方について考えることを通して、すべての子どもが安心して過ごせる環境をつくる。								
対 象	子育て中の保護者、教育関係者								
募集人数等	参加延べ 26人 定員 30人 申込 27人 【申込率90%・参加率96%】								
日時 場所	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	オンライン
	2月22日(土)	14:00	～	16:30	若狭公民館第一研修室	26	3	12	11
内 容	性の多様性基調講演（宮城里沙）								
	活動紹介（mato、あいみ）								
	クロストーク（宮城里沙、mato、あいみ）								
講 師	宮城里沙(性の多様性講師)、mato(fufu-hug)、あいみ(LGBTQOKINAWA親子コミュ)								
【講座の様子・感想】									
・子どもが性について話してくれた時、どう接したらいいか迷っていたが、今日の話を聞いて少し自信が持てた ・知らないではなく、知ろうとする姿勢が大切だと改めて感じた ・学校現場でもこうした講座を開いてほしい									
									
【成果】									
・保護者の間で、性の多様性をめぐる「正解のない問い」に対して、考え続けることの大切さが共有された。 ・会場のレイアウト、自由な座席配置やキッズスペースの設置により、「多様性を尊重する空間づくり」も体験として提供できた。 ・本講座のアーカイブ映像を通じ、講座当日に参加できなかった人々へのリーチも可能となっている。									
									

6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル	ネパール ニューイヤー パーティー 2024/2081			
事業概要	地域住民が互いに住みよい環境を作ることを目的とし、ネパールのビケラム歴のお正月に交流イベントを開催する。ネパール料理の提供や民族衣装の試着、文化紹介、演舞などを通じて、地域住民とネパール人が新年を祝うとともに、交流を深める。			
現状・課題	那覇市や沖縄県全体で、技能実習生・留学生・観光業関係者など外国人住民が増加しているが、若狭界限では特にネパール人が多く生活している。文化の違いや生活感の違いからおこる地域住民とのトラブルの不安を解消し、多文化共生社会の実現に寄与する。			
事業目的 めざす姿	文化の違いを尊重し、理解を深めることで、双方の関係を円滑にし、地域社会の一体感を促進する。ネパール人留学生と地域住民が相互理解を深め、共に住みやすい地域社会を築くことをめざす。			
対 象	地域の方々・地域・自治会・民生委員・包括支援センター・興味関心のある人			
募集人数等	定員なし		参加延べ 400人	
日時 場所	期日	開始	～ 終了	実施(集合)場所
	4月14日(日)	12:00	～ 15:00	若狭公民館ホール
内容	舞台プログラム[歌・ダンス（ネパール留学生）、歌三線、若狭松山旗頭、創作エイサー、ネパール・沖縄の文化紹介（高校生）、オンライン多文化クイズKahoot!、民族衣装試着コーナー、法律・健康相談コーナー、チョータラブース（フォトランゲージ） フード販売（チキンカレー、モモ、チャイ）、雑貨販売（NPO法人エデンプロジェクト）			
	【講座の様子・感想】 ・ネパールの方の民族衣装や、料理、ダンスなど初めて見るものや聞くものがたくさんあって驚きました。 ・ネパールだけでなくいろんな国の方との交流できてよかった。 ・アンケート結果（満足度）100%			
【成果】	・地域住民と外国人コミュニティとの交流が深まり、相互理解が促進された。 ・ネパール料理・民族衣装・ダンスなどの体験を通して、異文化への関心が高まった。 ・無料法律相談・健康相談コーナーの設置により、在住外国人が専門的な相談を気軽に行える環境を提供できた。 ・地域のボランティアとネパール人コミュニティで協力してイベントを開催することで、信頼関係が深まり、よい関係作りとなった。			
	 			

6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル		うみそら上映会 in 若狭海浜公園					
事業概要		有志による実行委員会が企画・立案した野外上映会を、地域の多様な機関・団体と協働して開催する。近隣住民はもちろん、地域や世代を超えた幅広い参加者を対象とし、交流や情報交換の場をつくる。					
現状・課題		近年、インターネット上での犯罪や、多様な価値観の違いによるトラブルが増加し、地域社会においても人と人とのつながりが薄れつつある。このような環境の中で、地域の交流が減少し、顔の見える関係が築きにくくなっていることが課題である。特に、世代間の交流が希薄になり、地域全体で共通の価値観や信頼関係を醸成する仕組みが十分に整っていない現状がある。					
事業目的 めざす姿		野外上映会を通じて、地域の人々が顔の見える関係を築き、多世代が交流できる場を創出することを目的とする。幅広い世代の地域の方が、会場に集まり共通の娯楽を楽しむことで、人とのつながりを感じやすい環境が作り、持続可能な地域交流の基盤を築く。					
対 象		那覇市在住・在勤・在学の人					
募集人数等		定員なし 参加延べ 1054人					
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数
	01	6月28日(金)	19:00	～	20:30	若狭海浜公園	120
	02	7月26日(金)	19:00	～	20:30	若狭公民館ホール	110
	03	8月23日(金)	19:00	～	20:30	若狭海浜公園	500
	04	9月27日(金)	18:30	～	20:00	若狭公民館ホール	200
	05	10月25日(金)	18:00	～	19:30	若狭公民館ホール	124
内容	01	うんじゅぬ花道／ミッキーマウスのお誕生日パーティー/なつかしの地域映像/その他ブース（チョークで遊ぼうコーナー、駄菓子屋）					
	02	bone、bone、墓音。/トムとジェリー「お化け屋敷」/どなるどダックと森の子リス/なつかしの地域映像/その他ブース（射的、輪投げ、軽音楽ライブ、駄菓子屋）					
	03	いじめっこザルと正直カニさん/影絵/なつかしの地域映像/その他ブース（射的、輪投げ、ヨーヨー釣り、チョークで遊ぼうコーナー、駄菓子屋）					
	04	ユーチューブ作品上映/アリとキリギリス/なつかしの地域映像/その他ブース（射的、輪投げ、ヴァイオリン演奏、駄菓子屋）					
	05	映像研究部作品上映/かわいいミルク屋さん/なつかしの地域映像/その他ブース（射的、輪投げ、ダンボールお絵描き、駄菓子屋）					
講師		真喜屋力(沖縄アーカイブ研究所)、奥平麻衣子（アトリエみるく）					
【講座の様子・感想】		・夕暮れ時に良い時間を過ごせました。 ・高校生スタッフの方がウチワを配ったり、遊ぶコーナーにて子ども達へ優しく対応してくれた。 ・アットホームな雰囲気、子ども達が楽しめる工夫もされていて、良かった。 					
【成果】		・今年度のうみそら上映会は、開場時のイベントが加わり、賑わいをみせた。 ・開場時のイベントには、飛び入りで高校生によるバンド演奏やヴァイオリン演奏があった、感動や活力をもたらしていた。 ・新たな取り組みとしてアトリエみるくの子どもたちによる影絵が披露され、たくさんの方が感動されていた。 					



6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル		あけぼの・うみそら上映会								
事業概要		曙小学校区まちづくり協議会と協働し、通常は若狭海浜公園で行われる「うみそら上映会」を曙小学校で開催する。曙小学校とPTCAの協力を得て、児童に体験の機会を提供し、幅広い世代の参加を促して情報交換の場とする。								
現状・課題		夏休みに曙地区でのイベントや行事が少なく、夏休み中に学校に来る機会がない子どもたちが2学期に学校に行きにくい現状があり、学校側も子どもたちが学校に来ることが楽しみにするような地域行事やイベントがないかという課題がある。								
事業目的 めざす姿		幅広い世代の地域の方が、会場に集まり共通の娯楽を楽しむことで、人とのつながりを感じやすい環境が作られることが期待される。地域の方同士のつながりと心の健康を向上することを目標としている。								
対 象		曙地域の方・曙小学校の生徒・PTCA								
募集人数等		定員なし 参加延べ 122人								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	
	01	7月27日(土)	19:00	～	20:00	曙小学校グラウンド	122	52	70	
内容	01	①短編映画「bone、bone、墓音。」②うちなーぐちアニメ トムとジェリー「お化け屋敷」③16mmフィルム ドナルドダックと森の子リス ④懐かしの地域映像								
講 師		真喜屋力(沖縄アーカイブ研究所)								
【講座の様子・感想】										
・イベント情報をたまたまオープンチャットで知った。いい講座がたくさんあると思うので、今後もたくさん情報を流してほしい。 ・沢山の親子連れが楽しんでいた。 ・アンケート結果(満足度)100%										
										
【成果】										
・曙小学校とPTCAの協力のもと、地域交流・世代交流を実施した。 ・老若男女の参加があり、幅広い世代に楽しんでもらうための工夫をした。 ・設営段階からPTCAと曙小学校区まちづくり協議会のメンバーが交流しながら手伝いに参加した。 ・子どもたちと地域の方々との交流の場となった。										
										

6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル	第26回若狭地域文化祭			
事業概要	本事業は、地域住民が主体となり、地域内の団体や関係機関と連携して実施する地域文化祭である。会場となる若狭海浜公園において、舞台プログラムや子ども向けのブース、各種出店などを展開し、国籍や世代を問わず多様な住民が運営および参加を通じて関わることで、地域における交流とつながりの促進を図る。			
現状・課題	地域における多世代交流は、近年やや減少傾向にある。特に、若い世代が地域の行事へ参加する機会は限られており、地域への関心や帰属意識が高まりにくい状況があった。また、高齢者にとっても、地域と関わる場が少なくなっている。一方で、地域には外国にルーツを持つ住民も一定数存在するが、日常的な接点は少なく、互いの文化を理解する機会が不足していると考えられる。こうした課題をふまえ、誰もが無理なく関われる行事を通じて、多世代・多文化が交わる場づくりの必要性がある。			
事業目的 めざす姿	多世代・多文化の住民が互いに認め合い、自然に関わり合える地域社会の実現を目指す。文化祭を通じて、若年層や高齢者、外国にルーツを持つ住民を含む誰もが参加しやすい交流の場を創出することで、地域への関心や愛着、帰属意識の醸成を促進する。地域内における世代や文化の垣根を越えたつながりを広げ、持続的な地域コミュニティの形成につなげていく。			
対 象	若狭地域住民			
日時 場所	期日	開始 ～ 終了	実施(集合)場所	参加人数
	10月26日(土)	12:00 ～ 17:00	若狭海浜公園	1,480
内容	ステージ プログラム	ジュニアジャズオーケストラおきなわ、若狭小学校職員、あゆみ幼児学園、まつやま保育園、若狭こども園、若狭児童館キッズダンス、那覇青年育成連合会、上山中ダンス同好会「Buzz」、若狭ちむどんどん太鼓、地域婦人部、アフロディーテベリーダンス、ハワイアンズWAKASA、真行館若狭空手教室、玉城節子翔節会琉舞道場、那覇青少年舞台プログラム、沖縄ネパール友好協会、若狭百寿会・若狭市営住宅自治会、若狭はびねす児童クラブ、波上宮獅子舞保存会、ゆいなぐ会、若狭島うたの会、若狭・松山旗頭実行委員会		
	子ども イベント広場	若狭児童館、若狭児童クラブ、アート部、若狭マリナーズ、ヤギコーナー		
	飲食物販 エリア	若草の会、アワニコキッチン、沖縄ネパール友好協会、ハピネス児童クラブ、若狭マリナーズ、24Sweets shop、まつやま保育園保護者会、若庭会		
	各種ブース	お抹茶体験、めぶき、mana、地球ハートクラブ		
【講座の様子・感想】		・子どもから高齢者まで、多世代による演舞・ステージ発表が会場を盛り上げた ・いろんな世代が一緒に楽しめて、地域のつながりを実感しました ・子ども広場では、動物ふれあい・遊具・ゲームが人気を集め、安全に配慮しつつ楽しい時間が提供された		
【成果】		地域住民が主体となり、多様な団体が協力して文化祭をつくり上げたことで、地域のつながりと一体感が深まった。世代や文化を超えた参加があり、地域に対する誇りや愛着が育まれ、多文化共生への意識も高まった。また、地域団体同士の連携が強まり、今後の継続的な活動への土台が築かれた。来場者からも「地域のあたたかさを感じた」「子どもの頑張りに感動した」などの声が寄せられ、文化祭の意義が再確認された。		



6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル		うまんちゅすりてい CGG年末美化清掃 プラスONE					
事業概要		自治会、婦人会、小中高生、PTA関係者、NPO、公民館利用団体および各機関が一体となり、若狭地域の公園や道路、地域の清掃活動を実施する。さらに、「プラスONE活動」として、ふるまい鍋を提供する。					
現状・課題		近年、社会環境の変化による人間関係の希薄化や、SNSの普及により、スマートフォンを通じて子どもが被害者や加害者となる事件が後を絶たず、大きな社会問題となっている。こうした状況を踏まえ、犯罪に巻き込まれない環境づくりや、豊かな心を育むための地域のつながりが十分に構築されていないことが課題である。また、若狭地域は繁華街や美しい海岸を有し、きれいに保つためにゴミ清掃を行っている個人や団体はいるものの、路地裏や空き地、公園の一角など清掃が行き届かない箇所が点在している。					
事業目的 めざす姿		地域の人々が「キレイなまちづくり」を目指して協力し合う過程で、地域内に顔見知りの関係が生まれ、「地域の子は地域で守り育てる」という共通認識の醸成につなげ、青少年の健全な育成を図る。					
対 象		若狭小学校地区の住民の人					
募集人数等		定員なし 参加延べ 101人					
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数
	01	12月15日(日)	10:00	～	12:00	若狭小学校区 各自治会周辺	101
内容	01	10:00～11:00 清掃作業 11:00～12:00 ふるまいナービー(豚汁)					
【講座の様子・感想】 ・まちをみんなできれいに掃除ができて、よかった ・日頃、掃除できない場所をみんなで協力してきれいにできてよかった 							
【成果】 ・今回、若狭小学校区まちづくり協議会が主催となって、各自治会と連携しあい開催できた。 ・日頃、少人数ではできない箇所を一丸となって清掃を行う姿が見られ交流する姿が見られた。 ・地域全体が豚汁を囲って談話しながら交流し情報交換を行う場面があった。 							



6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル		朝食会200回記念『アチビーフェス』					
事業概要		2007年から毎月1回開催しているおかず一品持ち寄り「朝食会」の200回目を記念して開催。多様な人が参加できる朝食会らしい“ゆるい”場づくりのもと、地域住民や企業から提供いただいたおかず（お粥のお供）をいただきながら、多様な飛び入りパフォーマンスを楽しみ、地域情報の交換、多世代交流の場を創出する。					
現状・課題		地域コミュニティの希薄化が指摘されて久しいが、新型コロナウイルスの流行以降、地域活動は停滞し、繋がりを感じられる場はさらに減少している。特に地縁組織に属していない単身者などが気軽に参加できる地域コミュニティは少なく、多様な地域住民が気軽に集える場や機械の創出が求められている。					
事業目的 めざす姿		コロナ禍においてもオンラインを活用するなどして、地道に継続してきた「朝食会」の取り組みやその雰囲気を体感することにより、頑張らずに参加できるコミュニティについて知る。200回の節目を迎えた朝食会の継続発展の足がかりとする。					
対 象		那覇市在住・在学・在勤の人、関心のある人					
募集人数等		定員なし 参加延べ 109人					
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数
	01	12月1日(日)	9:00	～	11:00	若狭公民館ホール	109
内容	01	百人で朝食を食べる					
【講座の様子・感想】 ・賑やかな雰囲気、豪華なおかずをたくさん食べて大満足。200回も続いていることが素晴らしい。 ・けん玉名人タッキーさんの妙技、高校生の弾き語り、子どもたちの可愛いダンスなど飛び入りパフォーマンスが楽しかった。 ・アンケート結果（満足度）100%							
【成果】 ・「アチビーフェス」は、“ゆるく・ながく・みんな”続けてきた朝食会の一つの到達点でもある。 ・200回という節目を祝うだけでなく、若い世代や在留外国人が参画できる貴重な場となった。 ・孤食の解消・多文化共生・住民主体運営など、複数の地域課題に対して楽しみながら取り組むモデルとなる可能性も感じられた。							







6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル	新春もちつき大会 2025			
事業概要	地域住民が集まり、伝統行事である餅つきを通じて新年を祝うイベントを開催する。本事業では、住民同士の交流を促進し、世代を超えたつながりを深めることを目的としている。円滑な運営のために関係団体と連携し、地域の活性化と伝統文化の継承を図る。			
現状・課題	地域での世代間交流が減少し、伝統行事に触れる機会も限られている。また、運営面では関係者同士の連携や役割分担をより明確にすることで、さらに円滑に進められる可能性がある。このような状況の中で、地域のつながりを深めながら、よりスムーズな運営を目指していくことが課題である。			
事業目的 めざす姿	住民同士の交流と親睦を深めることで、豊かで潤いのある地域づくりを目指す。また、伝統文化に触れる機会を提供し、次世代への継承を促進する。			
対 象	若狭小学校区地域住民の人			
募集人数等	定員なし		参加延べ 200人	
日時 場所	期日	開始	～ 終了	実施(集合)場所
	1月11日(土)	10:00	～ 12:00	若狭公民館玄関前
内容	司会：若狭ちむどんどん太鼓 ①開会の挨拶 (若狭公民館 館長 宮城 潤) ②旗頭演舞 (若狭・松山旗頭実行委員会) ③主催者挨拶 (若狭小学校区まちづくり協議会会長 伊地 柴基) ④激励の言葉 (那覇中青少協 会長 高良直子) ⑤新成人の挨拶 (那覇中校区 成人式実行委員会 実行委員) ⑥オープニング ・合唱『一月一日』、演舞 (あゆみ幼児学園園児) ・エイサー (若狭ちむどんどん太鼓) ・獅子舞 (波上宮獅子舞保存会) ⑦つき始め式 ・関係者紹介 (若狭小学校区まちづくり協議会会長 伊地 柴基) (那覇市立若狭小学校 校長 照屋 謙二) (NPO法人地域サポートわかさ 理事長 上原 廣保) (那覇中校区 成人式実行委員会 実行委員)			
	【講座の様子・感想】 ・若狭小学校区まちづくり協議会と若狭公民館が協力し、賑やかな会を開催した。 ・はたちの記念式典実行委員会などの協力により、十分な人員体制で取り組めた。			
【成果】	・参加者が積極的に協力し、多世代の交流が深まる機会となった。 ・地域の方々が新年を共に楽しむ場を提供できた。 ・地域の伝統行事を通じて、住民同士のつながりを強めることができた。			
	 			

6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル		なは防災キャンプ'24春（若狭小学校）								
事業概要		那覇市の指定避難所である若狭小学校において、災害時に必要な準備と対処法を身につけるためのプログラムを地域住民と企画。参加者が若狭小学校にある備蓄倉庫や災害時に活用できる備品などを確認する。様々な個人や機関との連携を通じて、災害時のプラットフォームを継続的に機能させるための関係構築を促進する。								
現状・課題		備蓄倉庫や災害時に使用される備品の場所や個数などが地域住民に共有されておらず、実際の災害時に迅速な情報共有や支援活動において、緊密な連携がまだ十分に確立されない現状。								
事業目的 めざす姿		地域住民一人ひとりが災害に対して自ら準備をし、適切に対応できるだけでなく、地域全体として一体となり、災害時に迅速かつ円滑に協力し合える社会を築くことを目指す。								
対 象		若狭小学校校区の住民・PTA・興味・関心のある人								
募集人数等		定員 20人 申込 50人 参加延べ 50人 【申込率250%・参加率100%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	
	01	4月27日(土)	15:00	～	22:00	若狭小学校体育館	50	20	30	
	02	4月28日(日)	7:00	～	12:00					
内容	01	備蓄庫見学/テント設営/持ち出し品シェア/防災紙芝居読み聞かせ/夕食								
	02	ラジオ体操/振り返り								
【講座の様子・感想】										
・防災キャンプの経験者がリードして、避難所のスタートをしながらと思った。 ・指示されるのではなく、自分で考えて行動することを促し、気づきを共有できた。 ・アンケート結果（満足度）90.9% 										
【成果】										
・「顔が見える連携のプラットフォーム作り」に貢献し、地域全体で協力し合う体制が築かれた。 ・参加者は災害時の準備や対応方法に対する意識を高め、実践的な知識を共有できた。 ・課題として、避難所の役割に関する認識の共有が不十分だったことが挙げられる。 ・市民に避難所の役割が十分に伝えられていないことが問題となり、誤った認識が広がる可能性がある。 ・継続して地域全体が協力し、防災意識を高めることが重要である。 ・より強固で持続可能な防災体制を構築し、災害時の安全・安心な地域づくりに貢献していく。 										

6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル		なは防災キャンプ'24夏（新都心公園）							
事業概要		那覇市の広域避難場所に指定されている那覇新都心公園を会場に、1泊2日の防災キャンプを実施。テント泊を通して屋外避難を疑似体験することで、災害時に必要な準備と対処法を身につけるためのプログラムを地域や関係各所と調整しながら実施する。							
現状・課題		那覇新都心公園が広域避難場所として指定されており、避難所機能が一部備わっている。テント泊を通じて屋外避難の疑似体験ができるため、実際の災害時に役立つ訓練を実施可能だが、地域住民が実際の災害時に即応性をどれだけ高められるかが課題。							
事業目的 めざす姿		地域住民同士のネットワークを強化し、日常的に防災意識を高める活動を行う。地域住民の自主防災力を向上を目指す。							
対 象		新都心地域・自治会・民生委員・包括支援センター・興味関心のある人							
募集人数等		定員 20人 申込 25人 参加延べ 25人 【申込率125%・参加率100%】							
日時 場所	回	期日	開始 ～ 終了		実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	
	01	9月21日(土)	15:00 ～ 22:00		新都心公園 緑地B	25	13	12	
	02	9月22日(日)	7:00 ～ 11:00						
内容	01	テント設営/持ち出し品シェア/夕食							
	02	ラジオ体操/振り返り/キキレンジャーの防災イベントに参加							
【講座の様子・感想】									
・いろいろな属性のキャンプ上手な方のお話が聞けて有意義でした。 ・暑い時期に公園で防災キャンプが出来て良かったです。様々な年代の方がいて、色々な意見も聞けたので、今後の参考にしたいと思います。 ・アンケート結果（満足度）100%									
【成果】									
・多様な参加者が集まり、新都心公園で実践的な避難体験を通じて災害時に求められる準備や対応を体験できた。 ・参加者がテントで過ごすことで、暑さ対策や騒音、防犯に対する意識が高まった。 ・地域住民や関係者が協力して支え合い、災害時のネットワーク強化に取り組んだ。 ・参加者が学んだことを家庭や地域で共有することで、災害への備えが広がった。									





6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル		なは防災キャンプ'24秋（上山中学校）							
事業概要		那覇市の指定避難所である上山中学校を会場に、地域住民、参加者、学校の生徒、そして教師が一堂に会し、災害時に必要な備えと対応方法について学ぶことを目的とする。地域住民、学校、行政機関、消防など、さまざまな個人や機関と連携し、災害時の支援体制を強化するためのプラットフォームを作り上げる。							
現状・課題		参加者が一度の体験を通じて得た知識を実生活にどれだけ活かせるかが不確実であり、防災に対する意識が一時的なものに留まってしまう現状がある。特に、日常生活の中で防災準備を習慣化することが十分に浸透していないことが課題と考える。							
事業目的 めざす姿		地域全体が災害に対して自助・共助の考えを学び、積極的に協力し合いながら災害に備え、対応できる防災社会の実現を目指す。							
対 象		天妃小学校区の地域の方々、上山中学校生徒、那覇市在住・在勤・在学、興味のあ る人							
募集人数等		定員 20人 申込 50人				参加延べ 50人 【申込率250%・参加率100%】			
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性
	01	11月1日(金)	18:00	～	22:00	上山中学校体育館	50	13	37
	02	11月2日(土)	7:00	～	10:00				
内容	01	備蓄庫見学/防災上映会/防災講話/防災紙芝居読み聞かせ/炊き出し体験							
	02	ラジオ体操/朝食（Team AMMA協力）/振り返り							
【講座の様子・感想】									
・防災かるたをして楽しかった。キャンプ用品を披露してくれたのは今後の勉強になった。 ・那覇は在留外国人・観光客・身体が不自由な高齢者が避難所に来た時の対応考える必要がある。 ・アンケート結果（満足度）100%									
									
【成果】									
・地域住民、学校の関係者、教師、生徒が一堂に会し、自発的に取り組んで円滑に運営できた。 ・学校の災害時の機能や備えについて深く理解することができた。 ・地域住民と学校の関係者との連携が強化された。 ・日頃からのコミュニケーションの重要性を再確認できた。 ・防災意識の向上につながると考えられる。									
									

6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル		なは防災キャンプ'25冬（那覇小学校）								
事業概要		那覇小学校で地域住民、PTA、生徒、教師と一緒に備蓄品や災害時の学校機能を確認し、災害時の学校の役割を理解する。地域と学校が連携し、顔が見える関係を築くことで、災害時に迅速かつ効果的に対応できる体制を作りをおこなう。継続的な防災プラットフォームを構築し、地域全体の防災力向上を目指す。								
現状・課題		地域と学校が連携して災害時における協力体制ができつつあるが、災害時の具体的な対応や避難所運営の詳細について、地域住民や学校の関係者の間で認識に差がある現状。防災知識を地域全体に浸透させ、災害時に一貫した対応ができないことが課題である。								
事業目的 めざす姿		地域と学校が一体となり、災害時に迅速かつ効果的に対応できる強固な協力体制を築き、相互に支え合う社会が実現されることを目指す。								
対 象		那覇小学校生徒・先生・PTA								
募集人数等		定員なし				参加延べ 190人				
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	
	01	2月28日(金)	14:00	～	15:30	那覇小学校体育館	152	76	76	
	02	2月28日(金)	16:00	～	18:00	那覇小学校地域連携室	38	19	19	
内容	01	防災かるた/災害時用パーテーションを設置								
	02	防災×演劇ワークショップ								
【講座の様子・感想】										
・異学年交流を進めながらのワークショップはリーダーシップ、フォロワーシップを育てるものでした。途中で帰ってしまう人も多かったのが残念。 ・知ること、みんなで考えることが大切。 ・アンケート結果（満足度）100%										
										
【成果】										
・第1部では学校、PTA、生徒、教師が協力し、防災かるたやパーテーション設置などを実施できた。 ・第2部では演劇を活用して、災害時の医療的ケア児の行動や避難所運営を体験を提供できた。 ・地域と学校の連携を深め、顔が見える関係を築くことができた。 ・地域全体の自主防災力向上を期待することができた。										
										

6 その他の事業

〔2〕提案事業

講座名 タイトル		アート部2024			
事業概要		創作活動を通して自己表現の場を提供するとともに、中学生にとっての安心できる居場所づくりを目的とする。			
現状・課題		若狭公民館近隣に所在する中学校2校には美術部が設置されておらず、生徒が創作活動を行う場が限られている。自己実現や表現活動の機会が不足している現状を受け、公民館において美術部に準じた活動の場を設け、中学校2校と協働して運営を進めた。これにより、地域における持続可能な文化活動の基盤づくりを目指す。			
事業目的 めざす姿		中学生が気軽に創作活動に参加できる環境を整え、自由な表現を通じて自己肯定感を育む。また、公民館を創作拠点とすることで、地域社会とのつながりを深め、世代を超えた文化的交流の場を形成する。			
対 象		那覇市在住・在学のアート好きな中学生			
募集人数等		定員なし 申込 24人		参加延べ 628人	
日時 場所 内容	月	回	実施(集合)場所	内 容	参加人数
	4月	14	若狭公民館 第二研修室	作品制作	42
	5月	14		作品制作、おでかけアート部	91
	6月	12		作品制作	85
	7月	14		作品制作、お化け屋敷	88
	8月	13		作品制作、対話型アート鑑賞	45
	9月	13		作品制作	36
	10月	15		作品制作、若狭地域文化祭	39
	11月	13		作品制作	31
	12月	12		作品制作	31
	1月	13		作品制作	49
	2月	12		作品制作、公民館祭り展示	39
	3月	11		作品制作	52
【講座の様子・感想】					
・学校に美術部がないので、ここで絵が描けるのが楽しい ・他校の生徒とも話せるのが新鮮だった					
【成果】					
・中学生の創造的な表現活動の受け皿としての役割を果たした。 ・地域の中学生同士の新たな交流の場となった。 ・展示活動を通じ、地域文化活動の一環としての位置づけを確立しつつある。 ・自由な表現に取り組む中で、他校の生徒とも自然な交流が生まれた。					

6 その他の事業

〔2〕提案事業

講座名 タイトル	多文化カフェ・わかさ					
事業概要	外国にルーツのある方々を支援するための居場所づくりを目的とした取り組み。単身で沖縄に来ている外国人や、言語の壁に対する課題を持つ人の他、外国人と交流したい日本人も参加している。参加者が安心して過ごせ、地域社会に溶け込むことができるよう支援することを目的とし、異文化交流の場として開催。					
現状・課題	沖縄には多くの外国人が単身で住んでおり、言葉や文化の壁、仕事の不安、経済的な問題など、さまざまな課題を抱えている。特に、日本語に課題を持つ外国人が多いものの、十分なサポートが不足している。また、精神的に辛い思いを抱える方々への支援も十分でないため、これらの課題に対応するためには、地域社会や関係機関と連携して取り組むことが求められている。					
事業目的 めざす姿	外国人が安心して生活できる地域社会をめざす。また、異文化交流を促進し、外国人と地域住民が互いに理解し合い、友人関係を築ける場を創出する。多様な文化が尊重され共に生きる、多文化共生社会の実現をめざす。					
対 象	外国にルーツのある人、外国人と交流したい人					
募集人数等	定員なし			参加延べ 343人		
開催期間	令和6年4月から令和7年3月の毎週木曜日18:30～20:30					
日時 場所 内容	月	回	内容	参加者のルーツ	新規 参加者	参加 人数
	4月	4	おしゃべり、言語の勉強	アメリカ、スペイン、台湾	5	28
	5月	5	おしゃべり、言語の勉強	アメリカ、スペイン、台湾、ネパール	3	33
	6月	4	おしゃべり、言語の勉強	アメリカ、スペイン、台湾、中国、韓国	5	28
	7月	4	おしゃべり、言語の勉強	アメリカ、スペイン、台湾、中国、ベトナム	6	33
	8月	5	おしゃべり、言語の勉強	アメリカ、スペイン、台湾、中国、韓国	5	41
	9月	4	おしゃべり、言語の勉強	アメリカ、スペイン、台湾、中国、メキシコ	4	23
	10月	5	対話型アート鑑賞	アメリカ、スペイン、台湾、中国	8	32
	11月	5	おしゃべり、言語の勉強	アメリカ、スペイン、台湾、中国、ブラジル	5	31
	12月	4	おしゃべり、言語の勉強	スペイン、台湾、中国、ネパール、アルゼンチン、韓国	1	24
	1月	4	おしゃべり、言語の勉強	スペイン、台湾、中国、ベトナム	1	22
	2月	3	おしゃべり、言語の勉強	アメリカ、スペイン、台湾、中国、ベトナム	5	25
	3月	3	おしゃべり、言語の勉強	スペイン、台湾、中国、韓国、ネパール	3	23
講 師	リ ウンスク					
【講座の様子・感想】						
・異なる国や文化の人々と交流できて楽しい。 ・中国語（韓国語・英語）が話せる。 ・言語や文化を超えてつながることができる ・行く場所がないので、ここがあってよかった。 他にも居場所がほしい。						
【成果】						
・様々な国から来た人々が集まり、対話を通じて異文化理解が深まっている ・沖縄で生活する外国人が地域社会に溶け込むきっかけとなっている ・他の外国人支援機関や行政、学校との連携が進み、活動が活発化している ・外国人に関する情報が集まりやすくなった						







6 その他の事業

〔2〕提案事業

講座名 タイトル	無料英会話教室「ELIPO」											
事業概要	若狭公民館で10年以上の活動経験を持つELIPOは、困窮家庭の子供たちへゲームやアクティビティを通して、質の高い英会話教育を無償で提供しており、保護者との信頼関係を築きながら活動している。英会話を通して多様な大人と出会い、将来への指針を得ることができるきっかけづくりを目的とする。											
現状・課題	沖縄の貧困問題は依然として深刻であり、特に子どもの貧困率が全国平均を大きく上回る現状がある。その一因として、低賃金や雇用の不安定さが挙げられる。こうした状況を打開する手段の一つとして、世界標準語である英語の習得が注目されている。英語を学ぶことで、観光業や国際ビジネスなど幅広い職業選択が可能となり、所得向上につながる。課題としては、学習機会の格差やモチベーション維持があり、地域や学校の支援体制の充実が求められる。											
事業目的 めざす姿	・英語を通じた将来の選択肢の拡大 ・困窮家庭の子どもたちへの継続的な学習支援の充実 ・異文化理解の促進と多様な価値観の受容											
対象	就学援助児童・ひとり親児童・生活保護世帯児童を対象											
募集人数等	定員なし 参加延べ 140人											
開催期間	令和6年4月から令和7年3月の毎週土曜日10:00～11:00											
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
回	2	2	3	4	5	3	4	4	4	4	3	5
参加人数	7	5	7	7	14	11	15	10	8	21	12	23
【講座の様子・感想】 「Gamification」と呼ばれる教育法でゲームを取り入れたりハロウィンやクリスマスイベント連動させたりしながら楽しくリラックスしながら英会話を学ぶ												
【成果】 ・子どもたちの英語力向上 ・経済的困難を抱える家庭の学習格差の縮小 ・キャリア意識の向上と将来設計の明確化												

6 その他の事業

〔2〕提案事業

講座名 タイトル		一品持ち寄り「朝食会」								
事業概要		平成19年度の青年の講座・交流事業参加者からの提案で始まったおかず一品持ち寄り「朝食会」は毎月一回の開催で、12月には200回目を迎えることができた。地域住民の主体性を生かしながら、多様な人が参加できる“ゆるい”雰囲気のもと食を囲み、地域情報の交換、多世代交流を創出する。								
現状・課題		「ゆいまーる」という相互扶助の精神が根付いていると言われる沖縄県だが、那覇市まちづくり調査2024では、共働き世帯と高齢化で「ご近所付き合いが少ない」と答える住民が46%にも上っている。特に若い世代の地域参画は少な以上今日がある。また、20代～40代単身世帯率は全国でも高く、朝食を取らない層は約3割（県保健統計2023）と言われている。								
事業目的 めざす姿		誰もが気軽に立ち寄れる「朝食会」を継続することで、地域との関わりが薄い単身者や若い子育て世代が新たなつながりを持てるようになる。「なは防災キャンプ」や「AMMAモーニング」とタイアップすることで、在留外国人を含む多様な地域住民に開かれた場であることを示すと同時に、地域活動に参画するきっかけとなる。								
募集人数等		参加延べ 138人								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加回数	男性	女性	
	01	4月28日(日)	8:30	～	10:30	若狭小学校体育館	40	15	25	
	02	5月25日(土)	8:30	～	10:30	若狭公民館実習室	40	16	24	
	03	7月27日(土)	8:30	～	10:30		8	3	5	
	04	8月31日(土)	8:30	～	10:30		7	3	4	
	05	9月21日(土)	8:30	～	10:30	若狭公民館ロビー	8	5	3	
	06	10月20日(日)	8:30	～	10:30	若狭公民館実習室	8	3	5	
	07	11月24日(日)	8:30	～	10:30		5	2	3	
	08	1月25日(土)	8:30	～	10:30		8	3	5	
	09	2月22日(土)	8:30	～	10:30		5	2	3	
	10	3月22日(土)	8:30	～	10:30		9	2	7	
内容	01	「なは防災キャンプ」タイアップ								
	02	「AMMAモーニング」タイアップ								
	03・04	お粥・おかず一品持ち寄り								
	05	お粥・おかず一品持ち寄り、「玉城青少年の家オンラインセミナー」参加								
	06～09	お粥・おかず一品持ち寄り								
	10	お粥・おかず一品持ち寄り、TV「沖縄CLIP」取材								
	11	お粥・おかず一品持ち寄り								
【講座の様子・感想】										
・美味しいものが並んで豪華な朝食。いつもつつい食べ過ぎます。 ・初参加でも「これ何?」「作り方教えて」など、自然に会話できるのがいい。 ・アンケート結果（満足度）100%										
【成果】										
・長年続いているため「朝食会」の認知は広がり、イメージも定着してきた。10年前に複数回参加していた単身者が、10年ぶりに家族で参加するなど、継続しているからこそその展開も生まれている。 ・参加している子どもがお手伝いをするようになるなど、共に成長が感じることができる。 ・AMMAモーニングとのタイアップにより、ネパール人留学生が多く参加してくれたが、会場に入りきらなくほどになったので、別日程・会場での開催に切り替えた。 ・新たな参加者はいるが、定着しづらい。「入りやすくて抜けやすい」というコンセプトを守りつつ、新規参加者の拡大に向けた発信も行う必要がある。										





6 その他の事業

〔2〕提案事業

講座名 タイトル	公共施設管理団体等が実施する子どもの居場所運営事業				
事業概要	本事業は、那覇市保護管理課の補助を受け、公民館と若狭児童館が連携し、地域に根ざした子どもの居場所を提供するものである。公民館では文化活動を通して自己肯定感を育み、児童館では日常的な見守りと支援を行う。地域や関係機関とのネットワークを活用し、子どもが安心して成長できる環境を整備している。				
現状・課題	家庭や学校以外に安心できる場を求める子どもにとって、「第三の居場所」の提供は重要な役割を果たしている。多世代との関わりを通して自己肯定感を育む効果が見られる一方、人的・物的資源の確保や支援の継続的な仕組みづくりには課題が残る。関係機関との連携強化も今後の課題である。				
事業目的 めざす姿	本事業は、子どもが地域で安心して過ごし、自らの価値を実感できる環境づくりを目的とする。文化活動や多世代交流を通じて自己肯定感を育み、公民館と児童館、関係機関が連携しながら、地域全体で子どもを育てる意識を広げ、居場所の継続的運営を目指している。				
対 象	那覇市在住・在学の幼児～高校生				
募集人数等	定員なし				
プログラム	活動名	時間	対象	場所	活動内容
	地域連携会議	各月1回	各関係機関	若狭児童館	会議
	若狭ちむどんどん太鼓	毎週 月・水・金 17時～18時	中学生	第2研修室	創作エイサー
	アート部	毎週 火・水・木 16時～18時	小・中学生	第1研修室	絵画・工作
	夏休み体験ウィーク スタンプラリー	夏休み期間中 8/4～8/10	近隣学校の 小学生	若狭地域の 教育関係施設	各種習い事 体験教室
	ELIPO	毎週土曜日 10時～12時	ひとり親、 就学援助世帯	第2研修室	英会話
	ジュニアジャズオーケ ストラおきなわ	毎週木曜日 16時半～18時半 毎週日曜日 14時～16時	小学生	ホール	ジャズの演奏/音楽を通 じた居場所づくり
	ロビー利用	随時	どなたでも	ロビー	勉強・談話
	その他施設利用	随時	どなたでも	第1研修室 第2研修室	卓球・ダンス等
【講座の様子・感想】 ・アート、音楽、スポーツを通じて子どもたちに居場所を提供 ・絵画や工作、音楽演奏を通じて自己表現や協力する楽しさを体験した。 ・「楽しかった」「もっと続けたい」といった声が多数 ・子どもたちは居場所としての安心感を得た					
【成果】 ・「新しいことに挑戦できた」 ・「友だちと一緒に楽しい時間を過ごせた」 ・子どもたちが自己肯定感を高め、成長を感じた					



第32回

若狭公民館まつり

～わらいで かがやく さいこうさあ～

2/15
(土)

オープニング

9:30-10:00

- ・若狭ちむどん
どん太鼓



おはなし会

10:30-11:30

- ・読み聞かせ
・リサイクル本



バザー

- ・オープニング終了後
・生活雑貨など



体験教室

ELIPO英会話 10:00-11:00
台湾民俗舞踊 13:00-13:30

舞台発表

14:00-15:10

- ・台湾民俗舞踊サークル
- ・混声合唱団アミーチ
- ・若狭カラオケサークル
- ・若狭ちむどんどん太鼓
- ・童謡と唱歌を楽しむ会



社交ダンスパーティー

18:00-20:30



2/16
(日)

舞台発表 12:00-15:00

- ・ジュニアジャズオーケストラおきなわ
- ・城岳混声合唱団
- ・サークルアロアロ
- ・琉舞ひまわりの会
- ・ベリーダンスわかさ
- ・青空民謡
- ・若狭ウクレレMiliMili
- ・若狭島うたの会
- ・若狭中国武術サークル
- ・若狭児童館キッズダンス
- ・自彊術愛好会
- ・Hou oli oli wakasa
- ・若狭ちむどんどん太鼓
- ・ZUMBAサークル

2/15
(土)

2/16
(日)

展示発表

10:00-15:00

<作品展示>

- ・若狭紅型サークル・アート部
- ・若狭洋裁サークル

<活動紹介>

- ・ELIPO・那覇第二民児協・若草の会・若狭小まち協
包括支援センター若狭・その他



出店・喫茶コーナー 10:00-15:00

雑貨 アクセサリー・他

喫茶

ケーキ・コーヒー



出店 沖縄そば

11:00-

※売り切れ次第終了



2025年

2/15 (土) ・ 16 (日)

みんな
待ってるよ～♪



主催：若狭公民館利用団体連絡協議会

共催：若狭公民館・若狭図書館・NPO法人地域サポートわかさ

協力：医療法人 陽心会・若狭児童館

那覇市若狭公民館 **WAKASA**

(098) 917-3446 / info@cs-wakasa.com

7 公民館まつり

公民館まつり風景



オープニング



バザー



出店コーナー



バルーン講習会



喫茶コーナー



体験教室



展示発表



舞台発表

